

資料Ⅰ

子どもに関する政策討論会議

意見シートとりまとめ

=====  
目 次  
=====

1. 世古委員	.....	1
2. 龍神委員	.....	2
3. 石垣委員	.....	3
4. 稻森委員	.....	5
5. 藤根委員	.....	6
6. 小島委員	.....	7
7. 石田委員	.....	9
8. 東委員	.....	11
9. 今井委員	.....	12
10. 稻垣委員	.....	13

子どもに関する政策討論会議 意見シート

委員名： 世古 明

問題意識	提言事項案
子どもの才能を伸ばす環境づくり	家の事情（費用、家族の世話など）で地域のスポーツクラブ、文化クラブ、学校の部活動が出来ない子どもへの支援。
ヤングケアラー支援	条例制定も視野に入れて進める。

子どもに関する政策討論会議 意見シート

委員名： 龍神 啓介

問題意識	提言事項案
幼保小連携のさらなる推進	幼保小連携について、カリキュラム作り、アドバイザーの配置、各市町における施策等すすんでいるが、すべての自治体において十分な連携がされる体制づくりをさらに行う必要があると考える。
非認知能力の育成に関する政策について	非認知能力育成のための系統だった指導は果たして可能であるのか、評価方法があるのか、家庭における非認知能力育成への効果的な支援策があるのか、幼稚園、保育所、小学校のカリキュラムを通して考える必要がある。

子どもに関する政策討論会議 意見シート

委員名： 石垣 智矢

問題意識	提言事項案
<p>いじめやひきこもり、不登校状態にある子どもたちを丁寧に支援する対応と、 これらの問題を起こさせない事前の細かな対応の双方の支援が求められている。</p>	<p>子どもの成長は家庭を中心に、学校や地域の中で急激に成長していくと考える。 いじめやひきこもり、不登校などは、様々な課題が重なり合い、それが大きくなることで表面化されてきたものであり（親であれば児童虐待やネグレクトなど）、 子どもたちはそれ以前から事あるごとに様々な SOS を発信している。 その時々々の SOS を瞬時に察知し、個々の具体的な課題に対して迅速に対応できるきめ細かなアウトリーチ型支援・プッシュ型支援（訪問支援や地域での声かけ、プッシュ型の情報発信など）を強力に推進することにより、いじめやひきこもり、不登校にさせない取組支援が必要である。</p>
<p>子どもの居場所づくりを推進するためには、子どもを最優先に考えることのできる社会全体の風土づくりが必要である。</p>	<p>子どもたちの well being（幸福実感度）を高めることが重要だと有識者からもお聞きしたが、 そのためには安全・安心に過ごせる居場所や人が必要であり、 体験活動や外遊びを通じて、子どもたちが社会で生きる力を育むためには、子どもや子育て家庭を社会全体で「支える・育てる・見守る」ことのできる社会づくりが必要である。</p>

情報モラル教育の必要性について	<p>情報モラル教育の必要性</p> <p>スマートフォンやタブレットの急速な普及により、子どもたちのインターネット利用が増えている。</p> <p>インターネットやSNSは、大きな情報収集のツールとして生活に欠かせないものになっているが、普及に伴い未成年を狙ったサイバー犯罪も増加している。また重要犯罪に加害者側として巻き込まれるケースもあり、</p> <p>子どもたちを犯罪から守る社会の取組促進と、</p> <p>ネットの危険性や情報の信憑性などを子ども自ら考える情報モラル教育を推進する必要がある。</p>
-----------------	---

子どもに関する政策討論会議 意見シート

委員名： 稲森 稔尚

問題意識	提言事項案
<p>教育委員会が当初予算編成で検討するフリースクールへ通う児童生徒への経済的支援は所得制限を設けることは、フリースクールが「特別な任意性のある場所」であることと誤った位置付けをしてしまうことになる。三重県は他県のフリースクール支援施策と比較しても立ち遅れている。</p>	<p>フリースクールは様々な事情で学校へ通うことのできないすべての子どもたちに選択肢として保障されなければならない。補助制度に所得制限を設けないよう再考を求めるべき。</p> <p>また、不登校施策を策定するにあたっては教育委員会と学校関係者だけではなく、フリースクール関係者や不登校児童生徒とその保護者の意向を反映させる必要がある。</p>
<p>子ども自身が自らには権利があるということを認識してもらい、条例策定にも深く関与することが次世代の自治意識を高揚させることにもつながる。</p>	<p>三重県子ども条例は「子どもの権利条例」に改めて、子どもを権利の主体と位置づけ、子どもの権利を明示し、意見表明権を支援し、権利侵害を救済する仕組みを創設する。また策定にあたっては深く子どもの参画を得る。</p>
<p>子どもに関する財源確保に努め、市町に自由度の高い財政支援を恒常的に行うべきである。</p>	<p>法人県民税の超過課税分の子どもへの配分を拡充して、継続的に市町の子どもの施策を支援すべきである。</p>
<p>文部科学省、教育委員会による不登校の原因を多数が本人の「無気力」とする分析が実態を無視した捏造である。学校側の不適切な指導や見過ごされているいじめや体罰などを認識して、学校こそが変わらなければならない。</p>	<p>文科省調査と民間団体調査では不登校原因を本人に由来するものか学校に由来するものか回答が逆転しており、現状行われていない不登校児童生徒の思いを聞き取ることから子どもの意見表明権を保障しなければならず、そこから不登校支援のための取り組みを立案すべきである。</p>

子どもに関する政策討論会議 意見シート

委員名： 藤根 正典

問題意識	提言事項案
<ul style="list-style-type: none"> <li>*子どもが豊かに育つことができる地域づくりに取り組むことが条例の目的となっている。</li> <li>*子どもの権利が尊重される社会の実現については、引き続き求めるべき内容と考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>*政策討論会議で議論してきたことは、きびしい状況にある子どもたちの成長支援の方策であり、すべての子どもの成長そのものを目的とするべきである。</li> <li>*子どもの権利が尊重される社会の実現は早期に実現する必要がある。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>*子どもが意見表明する機会の設定「子どもアドボカシー」の充実</li> <li>*子どもの成長支援をサポートする人材の養成がさらに必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>*立場が弱い子どもたちの想いを代弁するアドボケイトの充実が必要。</li> <li>*SC・SSWをはじめとする専門的支援体制の充実を進める。</li> <li>*家庭・学校・児相・施設など関係者の連携・協力体制の強化を進める。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>*子どもの居場所づくりの環境整備が十分とはいえない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>*子ども食堂、学習支援、放課後児童クラブ等の整備・充実に向けた県として支援方策の充実を進める。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>*困難を抱える子どもたちの増加に対応し切れていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>*いじめ対策、不登校児支援、児童虐待対策などの対策の強化を進める。</li> <li>*子どもの貧困対策、ヤングケアラー支援などに対応できる内容にするべきである。</li> <li>*特別な支援の必要な子どもたちに対する支援の強化が必要である。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>*「子ども条例」の対象を何歳までとするのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>*児童福祉施設退所者など18歳を超える人たちへの対応を含める必要はないのか。</li> </ul>



子どもに関する政策討論会議 意見シート

委員名： 小島 智子

問題意識	提言事項案
<p><u>三重県子ども条例</u>に関して</p> <p>子どもを大切にする「地域づくり」は大切だが、それはあくまでも環境整備であって、子どもの権利保障そのものを中心に据えるべきではないか？</p> <p>失敗する権利、考える権利、選ぶ権利を奪ってはいないか。</p>	<p>前文、目的等全面的に見直すべきだと考える。特にここ10年の社会環境の変化や課題を丁寧に書きこみ、それが子どもの課題となっていることに言及すること。根底に置く理念を整理し、それぞれが責任を負ってどう子どもの権利や育ちを保障するのかを書きこんでほしい。</p> <p>大人の在り方こそ、子ども達にとって一番の環境だと考えるので大人の役割をもっと厳しく書くこと。</p>
<p><u>三重県子ども条例</u>に関して</p> <p>逐条解説がなく、言葉の定義が曖昧であり、読む人によって受け止めが異なる可能性がある。条例の運用に逐条解説は欠かせない。</p>	<p>逐条解説をつくるべき。</p> <p>言葉の定義にとどまらず、何をすべきかを具体例等を挙げて解決する方向で作成を望む。</p>
<p>子どもの課題解決のためには、<u>子どもに直接届く支援と環境を整える支援</u>がある。しっかりと整理して、なんとなく子ども支援をしている雰囲気にならないことが必要だと考える。</p>	<p>具体的に分けるのは難しいが、特に直接支援が不足していないかの検証ができるように。</p> <p>数値目標が設定できるものは設定する。</p>
<p><u>子どもの安全安心の確保</u></p> <p>何が安全安心を阻むのか、明らかにすることが対策を講じるうえで必要ではないか。</p> <p>Ex. 虐待、性暴力、居場所の不足、マルトリートメント、相談体制の不足など</p>	<p>どう切り取るのかによって書きぶりは異なるが、「子どもの安全安心の確保」の観点を盛り込んでほしい。</p>
<p><u>学習支援</u></p> <p>取り組む市町数ではなくて、どのくらいの子どもたちに実際に届いているかが問われるべき。何のために、どのような状況を変えるために学習支援をするのかの意義づけが不足している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的を共通理解できるよう明らかにすること。</li> <li>・人数か割合か、数値目標を明らかにして取組を進めることが必要。</li> <li>・教育と福祉の関係性の強化について言及する。</li> </ul>

<p><u>居場所づくり</u></p> <p>目的を明らかにする必要がある。特に中高生世代の居場所の必要性について理解が足りないと感じる。</p>	<p>ユース支援センターの設置 あるいは取り組もうとする市民団体等の支援</p>
<p><u>特別な支援を必要とする子どもたちをどう捉えるか、の共通認識をする必要がある。</u></p> <p>発達に課題のある子どもたちや外国の子どもたちについて、教育の支援が十分でない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達に課題のある子ども、外国にルーツのある子どもに対する支援を明記すべき。</li> </ul>
<p><u>スマホ等の影響</u>について、もっと危惧をする必要があるのでは？特に幼少期からの使用に関する影響について不透明であるのでは？</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもや県民に危険性も含め周知する必要がある。県民運動の推進。</li> </ul>
<p><u>社会的養護につながらない子どもたちの存在</u></p> <p>一時保護から帰される、そもそも不適切な保護者等の対応が認識されずにいる子どもたちがいるのでは？</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市町との連携というが具体的にどういふことか、もっと踏み込んでいくことが必要。</li> <li>・学校の体制強化が子どもたちの発見や支援につながるのでは？</li> </ul>
<p><u>学校教育における子どもの意見の把握</u></p> <p>学校において子どもたちが何をどう感じているのか、丁寧に把握する必要がある。不登校の原因としても明らかにされていない側面があるのではないか？</p> <p>人権意識についても研修は十分であるか？</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育において子ども理解が一層必要であることについて書きこんでほしい。多くの立場で子どもに関わることは大切であるし、評価するが、そのことによって教職員の子どもへのかかわりが薄くなることは避けねばならない。</li> </ul>

子どもに関する政策討論会議 意見シート

委員名： 石田 成生

問題意識	提言事項案
<p>スマートフォンが日常生活に入り込み過ぎており、「スマートフォン依存症」とまで言われている。問題は、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・視力の低下</li> <li>・リアルなコミュニケーション能力の低下</li> <li>・ながらスマホの危険性</li> <li>・情報伝達が早すぎによる生き急ぎ</li> <li>・ネット犯罪の危険性</li> </ul> <p style="text-align: right;">等</p>	<p>適正な利用量、利用頻度を示し、関係部局より啓発する必要あり。</p>
<p>教職員不足解消が大きなテーマである。有識者からの聞き取りで、教員の仕事を削減することについてお尋ねしたところ、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通学路の見守り</li> <li>・保護者対応</li> <li>・大がかりな校舎清掃</li> </ul> <p>から教員を開放する必要性が示された。</p>	<p>内側から改善することが難しいようなので、外圧で改善を試みてはどうか。議会の協力も必要である。</p>
<p>体験活動が不足しているという指摘があり、その機会を作る必要がある。</p>	<p>体験活動は、人やお金が必要であるように思われるが、人やお金をできる限り使用せず、子供たち自身の想像力により体験の幅と奥行きを広げていく環境を準備する。</p>
<p>子どもの居場所づくりについて。</p>	<p>家庭及び学校に代わる居場所は短期的には必要であるかもしれないが、目指す方向は、家庭が一番安心できる場所であり、学校が最も楽しい場所である状況を取り戻す必要がある。体験活動の場所も大切な居場所になる。</p>

<p>子どもの声を聴くことについて。</p>	<p>子どもの定義は、年齢18歳未満であるが、大人に向かって言葉を出せる年齢と大人が感じ取らなければならない年齢がある。</p>
<p>家庭での虐待対策 児童相談所の AI 活用の検証も行われている。保護者からの虐待から児童の命を守る体制づくりが求められている</p>	<p>今日の命を守るために必要なことである。並行して、本来子どもの命を守る責任があり、守りたい気持ちが一番強いはずの保護者の変革を促すことが、長期的に必要なことである。</p>
<p>保育園での虐待対策 虐待事例が後を絶たない。就学前の子どもにとって一番安心して楽しい場所にしなければならない。</p>	<p>現時点では、原因の調査が十分でないため、調査が必要ではないか。市町との役割が有るのかも知れないが。</p>

子どもに関する政策討論会議 意見シート

委員名： 東 豊

問題意識	提言事項案
体験活動の機会が減少している。	自己肯定感を高めるための体験活動を充実させる必要がある。
困難を抱える子どもたちが安心して過ごせる場所が必要である。	子どもたちが「生き抜く力」を育むため、基本的な生活習慣をはじめ、自己肯定感や人や社会と関わる力などの非認知能力を高めるための支援として、子どもの居場所づくりの取組が必要である。

子どもに関する政策討論会議 意見シート

委員名： 今井 智広

問題意識	提言事項案
<p>子ども一人一人の豊かな育ちのためにきめ細かな幼保小連携はとても重要。 既に連携をしているが、今後、更に強化していく必要があると思う。</p>	<p>子ども達の状況変化、環境変化を可能な限りきめ細かに把握するために家庭を含めた更なる強化をしていく。 更に、幼保小中高、一体的に検討。 (卒業者への対応)</p>
<p>子どもの育ちや機微な感情の変化をより早く察知するためには家庭（地域）と学校側の日常的な連携が重要。 (例えば、保育園登園児の情報共有)</p>	<p>PTA と学校、可能な限り地域を含めた連携強化。 入園入学時からの継続した保護者との意思疎通の方法を検討。</p>

子どもに関する政策討論会議 意見シート

委員名： 稲垣 昭義

問題意識	提言事項案
<p>新型コロナ・感染症対策の子どもへの影響、子どもを取り巻くデータの悪化</p>	<p>前文等で、子どもへの影響を認め、過度であった部分を二度と同じ過ちを犯さないという意味で謝罪する。                      (学校での今なお続く過剰な対策、政府や自治体の専門家会議に子どもの専門家を入れていなかったことなど)</p>
<p>子どもを取り巻く様々な改善すべき課題について</p>	<p>挑戦的な数値目標を具体的に議会として提案する。                      (特に不登校、自殺、児童虐待については積極的な目標値を掲げてもいいのでは)</p>
<p>様々な格差、分断</p>	<p>学力や体力の格差、SNS 世界での様々な問題について先進的な取組を提案する。</p>